FAME Report

京都ノゾキ見トピックス

'94年のNEWスタイル 人前式からはじまる披露宴

豪華絢爛ウェディングから ハートフルウェディングの時代へ…

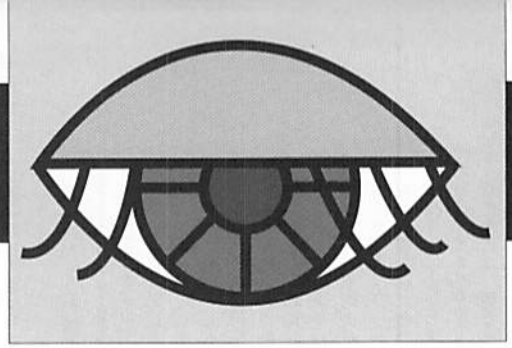
この提案を形にした『'94ウェディングUPセミナー』では「WeLoveHeart」と題した人前式ではじまる模擬披露宴が行われ、内装から音楽、進行と趣向をこらした内容に式を控えたカップル等の熱い視線が向けられていた。

ライター／藤本育子　カメラマン／桑島秀樹

ゴンドラ・スモーク当たり前、レーザー光線乱れ飛び、お色直しに命を賭ける…そんなバブリ～披露宴はもう古い！そう、今や不景気の波は日本のウェディング事情をも脅かし、お金をかけりゃGOODな結婚式の時代はバブルの崩壊と共に終わりを告げていたのだ。「じゃあ、私の結婚式はどうなるの!?」とお嘆きのあなたにコンパル（結婚式場センター）からの最新ウェディング情報をお伝えしよう。

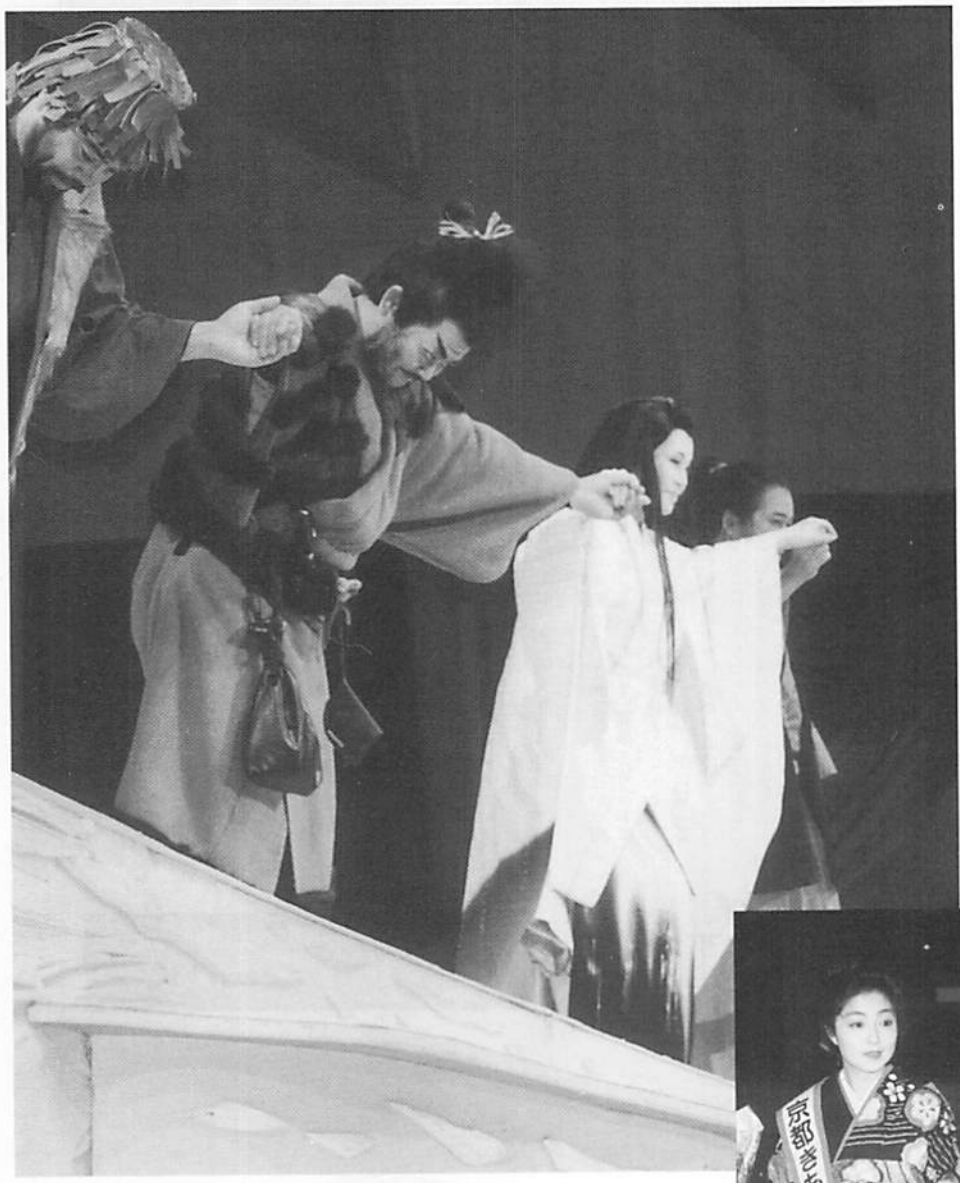
「これからの時代はハートフル、心のこもったあたたかい披露宴が主流になるでしょう。そこで私たちがおススメするのは、人前式（神仏ではなく、立ち会い人を立て親しい人の前で結婚を誓うスタイルのこと）からはじまる披露宴です。人前式のメリットは、まず結婚式と披露宴を続けて行うことができ、時間短縮・経費節減できること。その分、自分たちの趣向を凝らした自由な発想の披露宴が行えます。仲人や来賓もいないので、気を使うこともないでしょう。自分たちの企画にあわせて音楽や照明、内装に凝る…これから人生を共にする二人の初めての共同作業を手作りで行うことで、招待した方々への感謝の気持ちを表わすのです。また、親しい人に見守られながら結婚証明書にサインを交わし、結婚を誓うことは新郎新婦の結婚に対する決意も高まり、同時に招待客もよりあたたかな気持ちで祝福できるでしょう。これが今、時代に求められている結婚のスタイルなのです」

婚期を逃していたあなた！待ってた甲斐がありました！お互い幸せになりましょうね。（その前に男探さなきゃ…涙・涙・涙…）。詳しい情報お問合せは06・346・1651（株）結婚情報センター迄お気軽にどうぞ！



やっぱり日本人には着物が似合うと感じいった。

パールトーン創業65周年記念イベント オペラ「夕鶴」を主催



ライター／洲崎加容子

きものでおこしくださいーーと呼びかけるユニークなオペラが催された。さる2月4日、京都会館で上演されたオペラ「夕鶴」。この作品、出演者全員がきものを着て演じるもので、"きものオペラ"をきものを着て鑑賞してください、というわけだ。主催は（株）パールトーン。創業65周年の記念イベントとして行った。「夕鶴」は、佐渡の民話をもとに木下順二が戯曲化、團伊久麿が日本の風土感をたたえた旋律を作曲。初演以来43年間をへて、上演回数が500回を越える記録的ロングヒットをほこる国民オペラ。今回も作曲者の團氏自らタクトを振り、オペラの演出では著名な鈴木敬介氏が斬新な舞台を構築。そしてキャストは主役つうを日本を代表するソリスト鮫島有美子が演じたほか、一流の歌手が起用された。「様々なかたちで、きもの振興に取り組んできたパールトーンにとって、最高のスタッフで"きものオペラ"を主催できることは大きな喜びです」とパールトーンの國松照朗社長は胸を張る。実は鮫島さんが初めてきものを着たのも、5年前のパールトーン主催によるコンサート「日本のうた」でのこと。当初、きものを着て歌うのは帯が苦しくて無理なのではとの懸念を、パールトーンが用意した二部式きものでクリア。見事なきもの姿で美声を披露した。以来、「日本のうた」のプログラムのときは、きものを着てステージに立つようになった。オペラの当日、ロビーには綴機を持ち込んで西陣織の実演も行われ伝統きものをアピール。コールに応えてきものを着た観客も多数目についた。きもの愛好者の輪は、確実に広がっていく。